

後期研修医の目線で感じた震災時の状況と、その後の取り組み

平成27年度日本災害医療学生研修
『東日本大震災時の岩手県の医療』

平成27年12月19日(土)

岩手医科大学医学部産婦人科学講座
(元岩手県立宮古病院産婦人科)
千田英之

2011年3月11日(金曜日) 午後2時46分


三陸沖を震源とする
国内観測史上最大マグニチュード9.0
の大地震が発生

その後10メートルを超える大津波が
太平洋沿岸に襲来した






宮古病院研修医の感想



2年次研修医 高橋太郎
東海大学医学部卒

病院機能が回復したので、通常の研修に加えて災害医療も研修でき、非常に有意義な研修の最中にあると思う。この状況はあと2、3年は続くと思うので、大きな経験を積める研修先であると思う。



2年次研修医 浅見麻耶
秋田大学医学部卒

もともとぎりぎりの人員で診療を行ってきた宮古病院が震災を乗り越えられたのは、救急医療を手伝ってくださった応援の先生方、スタッフの方々のおかげだと思います。心から感謝しています。

まとめ-後期研修医の目線から-

- ・ 災害医療に対する日頃からの理解
- ・ 災害時は職種を問わず、自分の専門外の仕事が増える
- ・ 急性期から亜急性期、慢性期にわたる継続的な支援の重要性